科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
論理的思考 （日本語表現法）	1	1（３０）	基礎分野	焼山　廣志

【授業の目的・ねらい】

論理的な思考方法やまとめ方を学び、日本語についての認識を深める

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	【講義オリエンテーション】 ２０秒スピーチとスピーチ＆プレゼンの実施目標と実施要項の説明　＆評価方法・シラバスの説明 ・コトバンクの説明（サイトの使い方）
第２回	・日本語の文章作成法① 日本語文章表現法（［話し言葉と書き言葉］） ・符号・記号の使い方［講義］＆［演習］
第３回	・日本語の文章作成法② 日本語文章表現法（［読点の付け方＆わかりやすい語順］） ・［敬語の基本　講義①　］　　【P 対象】
第４回	・日本語の文章作成法③ 日本語文章表現法（［日本語の文章の呼応関係］） ・［敬語の基本　講義②＆演習①］　　【P 対象】
第５回	・日本語の文章作成法④ 日本語文章表現法（［わかりやすい語順にする］） ・［敬語の基本シート①完成　演習問題 65］
第６回	・日本語の文章作成法⑤ ①２０秒スピーチ＆プレゼンの実施要項の説明 ②＜手紙文の書き方の基本　講義①　＞導入＆講義概略
第７回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ①２０秒スピーチ実践（全員）① ②＜手紙文の書き方の基本　講義②　＞
第８回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ①２０秒スピーチ実践（全員）② ②＜手紙文の書き方の基本　講義③＞
第９回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ①２０秒スピーチ実践（全員）③ ②＜手紙文＆はがきの書き方の基本　講義④＞
第 10 回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ①２０秒スピーチ実践（全員）④ ②＜手紙文の書き方　実践演習①【下書】＞
第 11 回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ①２０秒スピーチ実践（全員）⑤ ②＜手紙文の書き方の実践演習①【清書】＞
第 12 回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ①２０秒スピーチ実践（全員）⑥ ②＜手紙文の書き方　実践演習②【下書①】＞
第 13 回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ①２０秒スピーチ実践（全員）⑦ ②＜手紙文の書き方　実践演習②【下書②】＞ 実践的日常の文章の書き方を習得する。 ③＜寒中見舞い・近況報告演習①【下書】＞
第 14 回	自分の考えを論理的に日本語で表現する方法 ②＜手紙文の書き方　実践演習②【清書】＞ 実践的日常の文章の書き方を習得する。 ③＜寒中見舞い・近況報告演習①【清書】＞
第 15 回	★提出レポート回収 ・寒中見舞い・近況報告文演習②【清書予告】［試験中］ ・授業総括　　分析書・提出レポート回収・評価

【使用テキスト】

日本語文章表現法　演習レポート 2021

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
情報科学	1	１（３０）	基礎分野	福島　武

【授業の目的・ねらい】

客観的な情報処理の手技と思考のあり方について学び、コンピュータを活用し、看護情報の処理判断に役立たせる。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	１章情報化による医療の変化、 ２章情報と情報処理　情報とは何か。情報処理、情報の伝達、保護など
第２回	３章コンピュータの概要 ハードウェアとソフトウェアの役割、コンピュータの機能・歴史 ハードウェアの構成・役割
第３回	３章コンピュータの概要、４章コンピュータの仕組 コンピュータの周辺機器、ソフトウェア、セキュリティ
第４回	４章コンピュータの仕組み 2、10、16 進数の相互変換、２進数の加減算、データの表現　論理演算演習
第５回	４章コンピュータの仕組　５章ネットワークとインターネットフローチャート、 プログラミング言語　ネットワーク、通信回線、プロトコル、セキュリティと倫理
第６回	１章統計処理の概要、２章記述統計　統計処理の目的・分類、データの分類　計量データの表し方（ソート、ヒストグラム）
第７回 第８回	コンピュータ実習（第１日）起動終了、マウス・キーボードの使い方、簡単な表作成
第９回 第 10 回	コンピュータ実習（第２日）データ入力、計算式の入力、コピー、データ保存、呼出し データの並び替え、グラフの完成
第 11 回	２章記述統計 計量データの表し方（中央値、標準偏差） 相対度数、累積相対度数、標準偏差の求め方
第 12 回	２章記述統計 散布図、相関関係、回帰直線の求め方
第 13 回	２章記述統計 正規分布とその応用、演習
第 14 回	３章推測統計 推測統計とは何か、母集団と標本の抽出例
第 15 回	３章推測統計 正規分布、点推定と区間推定、統計処理の総復習

【使用テキスト】

看護医療系のための情報科学入門

【評価方法】

終講試験結果によるほか、学習態度などの観察の記録・出席の状況など、
平常点を加味し１００点法にて評価する。

科目名	年次	単位(時間)	区分	講師名
人間関係論	1	1（３０）	基礎分野	森田　智

【授業の目的・ねらい】

社会集団における人間関係を理解し、人間に対する考え方、カウンセリングの技術を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	オリエンテーション
第２回	自分を知る（1）
第３回	あたえる　/　もらう（1）
第４回	あたえる　/　もらう（2）
第５回	あたえる　/　もらう（3）
第６回	もつ　/　手放す（1）
第７回	もつ　/　手放す（2）
第８回	まねる　/　ものにする
第９回	完成する　/　一緒に作る
第 10 回	共有する
第 11 回	繋がる
第 12 回	伝える
第 13 回	まとめる
第 14 回	自分を知る（2）
第 15 回	まとめ

【評価方法】
終講試験

【使用テキスト】
必要に応じて、ビデオ学習、ワーク、グループ活動を取り入れていく

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
心理学	２	１（３０）	基礎分野	新牧　恭太

【授業の目的・ねらい】

人間の心や行動を総合的にとらえ、人間理解を深める。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	オリエンテーション
第２回	ストレス
第３回	感情・知覚・記憶
第４回	人格心理学
第５回	発達心理学１
第６回	発達心理学２
第７回	学習心理学
第８回	社会心理学
第９回	アセスメント１
第 10 回	アセスメント２
第 11 回	臨床心理学１
第 12 回	臨床心理学２
第 13 回	医療従事者の心理１
第 14 回	医療従事者の心理２
第 15 回	まとめ

【使用テキスト】
配布資料

【評価方法】
終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
社　会　学	１	１（３０）	基礎分野	土持貴志

【授業の目的・ねらい】

社会的存在としての人間理解を深め、社会文化と生活の成り立ちや、相互作用を理解する

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	授業全体の説明―シラバス紹介と論述に向けて
第２回	生命倫理学の基本四原則とインフォームドコンセント
第３回	生殖医療の問題―配偶子提供と子供の知る権利
第４回	生殖医療の問題―代理出産と家族
第５回	中絶の問題―中絶を巡る日本と世界の現状
第６回	中絶の問題―中絶の許容論と非許容論
第７回	中絶の問題―赤ちゃんポストと内密出産
第８回	中間まとめ―論述の方法
第９回	脳死と臓器移植の問題―脳死は「人の死」か
第 10 回	脳死と臓器移植の問題―日本と世界の移植制度
第 11 回	脳死と臓器移植の問題―移植制度はどうあるべきか
第 12 回	死の決定権の問題―自殺はなぜいけないのか
第 13 回	死の決定権の問題―尊厳死と安楽死
第 14 回	死の決定権の問題―好きに死ぬ権利はあるか
第 15 回	授業のまとめ―試験に向けて

【評価方法】
学科試験：80%、リアクションペーパー：20%
【備考】
グループディスカッションを行うので積極的な参加が求められます。自分や他者の倫理的判断がどのような根拠や価値観に基いているのかを意識することが問題理解の助けとなります。
質問等があれば授業中であっても、リアクションペーパーへの記入であっても気軽に質問してください。
学生の興味関心に応じて授業内容が変更される可能性があります。
必要に応じて、資料を配布します

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
英語（英会話）	２	１（３０）	基礎分野	松尾　直子

【授業の目的・ねらい】

コミュニケーションの手段である語学を学び、国際的感覚を身につけ、看護に必要な英会話の基礎を習得する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	オリエンテーション　自己紹介
第２回	Unit 1:　Please speak more slowly.;
第３回	Unit 2:　Where are you from?:
第４回	Unit 3:　Could you tell me your address please?;
第５回	Unit 4:　What department do you want to visit?;
第６回	Unit 5:　Where is the x-ray department?;
第７回	Unit 6:　What are your symptoms?;
第８回	Review Units 1-6
第９回	Unit 7:　Where does it hurt?;
第 10 回	Unit 8: Have you ever had a serious disease?;
第 11 回	Unit 9:　Take one tablet, four times a day.;
第 12 回	Unit 10:　Let　me make on appointment for your test
第 13 回	Unit 11:　 your surgery will be tomorrow at 9a.m.
第 14 回	Unit 12:　How are you feeling today?Review
第 15 回	Review Units 7~ 12

【使用テキスト】
クリスティーンのやさしい看護英会話
【評価方法】
学科試験
授業内課題、小テスト、終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
保健体育	１	１（３０）	基礎分野	嶋田　良子

【授業の目的・ねらい】
スポーツを通してコミュニケーションを図り、社会性、協調性、実行力の養成を目指す。
生涯にわたって自己の健康を保持する能力を養い、健康･スポーツに関する総合的理解を深める。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	ガイダンス 授業の展開・評価について　講義・ストレッチの概要について
第２回	ストレッチの分類・役割１ ①　身体活動による骨格筋（筋肉）の役割について学びます。 ②　ストレッチの目的・方法について学びます
第３回	ストレッチの分類・実践２ ①　ストレッチの内容を作成しグループ毎にまとめます ②　ストレッチを実践しながら動きを確認します
第４回	ストレッチ・ヨガ　１ ①　解剖学的視点から見たヨガの基礎を学びます
第５回	ストレッチ・ヨガ　２ ①　呼吸法・ヨガ・アーサナの実践
第６回	バトミントン　１ ①　プレー上の諸注意・ルール説明　②基本練習
第７回	バトミントン　２ ①　ダブルス編成によるゲーム実施　②技術の取得・向上
第８回	バトミントン　３ ①　ダブルス編成によるゲーム実施　②ゲームの戦術
第９回	バトミントン　４ ①　ダブルス編成によるゲーム実施　②ゲームの展開
第 10 回	バトミントン　５ ①　ダブルス編成によるゲーム実施　②ゲームの総合結果
第 11 回	ソフトバレーボール１ ①　プレー上の諸注意・ルール説明　②基本練習
第 12 回	ソフトバレーボール２ ①4 人編成によるゲーム実施　②技術の習得・向上
第 13 回	ソフトバレーボール３ ①4 人編成によるゲーム実施　②ゲーム戦術
第 14 回	ソフトバレーボール４ ①4 人編成によるゲーム実施　②ゲーム展開
第 15 回	ソフトバレーボール５ ①4 人編成によるゲーム実施　②ゲームの総合結果

【評価方法】
受講態度・参加意欲　６０％　技術　到達努力２０％　ストレッチ評価２０％
【備考】

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学　Ⅰ	１	１（３０）	専門基礎分野	田中　真一

【授業の目的・ねらい】

人間の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	解剖生理学とは　人体各部の名称　人体を構成する系統について
第２回	細胞と組織
第３回	栄養の消化と吸収Ⅰ：概論、口から胃
第４回	栄養の消化と吸収Ⅱ：小腸～大腸
第５回	栄養の消化と吸収Ⅲ：肝胆膵、消化と吸収まとめ
第６回	呼吸と血液のはたらきⅠ：上気道
第７回	呼吸と血液のはたらきⅡ：下気道、呼吸のまとめ
第８回	中間試験
第９回	血液の循環とその調節Ⅰ：血管、心臓
第 10 回	血液の循環とその調節Ⅱ：血液、動脈
第 11 回	血液の循環とその調節Ⅲ：静脈、リンパ
第 12 回	体液の調節と尿の生成Ⅰ：腎臓
第 13 回	体液の調節と尿の生成Ⅱ：排尿路、体液
第 14 回	内臓機能の調節Ⅰ：自律神経系
第 15 回	内臓機能の調節Ⅱ：内分泌系

【評価方法】

終講試験

【備考】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 脳・神経系	2	1（8）	専門基礎分野	倉本　晃一

【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	・脳神経の構造と機能 ・神経系の構造と機能（大脳、小脳、間脳）
第２回	・神経系の構造（脳幹、脊髄） ・脊髄神経・脳神経 ・脳室と髄膜
第３回	・脳の高次脳機能
第４回	・運動機能と下行伝導路 ・感覚機能と上行伝導路（視覚・聴覚伝導路）

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 運動器系	２	１（３０うち８時間）	専門基礎分野	上田　淳

【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	医学書院　系統看護学講座 解剖生理学　「身体の支持と運動」人体の骨格、
第２回	医学書院　系統看護学講座 解剖生理学　「身体の支持と運動」体幹の骨格筋、上肢の骨格と筋、
第３回	医学書院　系統看護学講座 解剖生理学　「身体の支持と運動」下肢の骨格と筋　頭頸部の骨格と筋
第４回	医学書院　系統看護学講座 解剖生理学　「身体の支持と運動」頭蓋、筋の収縮

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 眼　系	２	１（4）	専門基礎分野	諸岡　居織

【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	眼に関する解剖生理学
第２回	解剖生理学の理解を深める

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 耳鼻系	２	１（２）	専門基礎分野	関　正大

【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	耳・鼻・咽頭部の解剖に関して

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 皮膚系	2	1（2）	専門基礎分野	岡　毅

【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	皮膚の解剖と生理

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
解剖生理学Ⅱ 歯　系	２	１（４）	専門基礎分野	前田　幸弘

【授業の目的・ねらい】

人体の構造と機能を系統的に理解し、看護に必要な解剖生理学の知識を習得し、またそれらの知識が生命、生活になぜ必要なのかについて理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	解剖生理学Ⅱ　歯系
第２回	解剖生理学Ⅱ　歯系

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院

【評価方法】

学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
生化学	1	１（１６）	専門基礎分野	小林　正幸

【授業の目的・ねらい】

生体構成成分である物質の生体内での作用について学び、人の代謝について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	生化学および代謝の基礎
第２回	酵素について 糖質の構造と機能
第３回	糖質の代謝について
第４回	脂質の機能と構造について 脂質の代謝について
第５回	タンパク質の構造と機能について タンパク質の代謝について
第６回	ポルフィリンおよび異物代謝について 遺伝子と核酸について
第７回	核酸の構造と機能および代謝について 遺伝子の複製・修復　組み換えについて
第８回	転写・翻訳について

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【2】生化学　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位(時間)	区分	講師名
栄　養　学	１	１（３０）	専門基礎分野	田頭　義文

【授業の目的・ねらい】

人間にとっての栄養の意義、生きるという事、健康との関わりを理解する。生命を育てていくのに必要な要素を正しく、過不足のないとり方を理解、実践する知識を身につける。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第１章　人間栄養学と看護
第２回	第２章　栄養素の種類とはたらき
第３回	第３章　食物の消化と栄養素の吸収・代謝
第４回	第３章　食物の消化と栄養素の吸収・代謝
第５回	第４章　エネルギー代謝
第６回	第５章　食事と食品
第７回	第５章　食事と食品
第８回	第６章　栄養ケア・マネジメント
第９回	第７章　栄養状態の評価　判定
第 10 回	第７章　栄養状態の評価　判定
第 11 回	第８章　ライフステージと栄養
第 12 回	第８章　ライフステージと栄養
第 13 回	第９章　臨床栄養
第 14 回	第９章　臨床栄養
第 15 回	第１０章　健康づくりと食生活

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【3】　栄養学　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
薬理学	1	１（３０）	専門基礎分野	畑瀬　圭佐

【授業の目的・ねらい】
薬物の生体への影響を総合的に理解し、臨床で有害な薬理作用を早期に発見し、対応できる知識を習得する。

【授業計画】

回　数	講　義　内　容
第１回	薬理学総論
第２回	薬理学の基礎知識
第３回	抗感染症薬
第４回	抗がん薬
第５回	免疫抑制薬
第６回	抗アレルギー薬・抗炎症薬
第７回	末梢での神経活動に作用する薬物
第８回	中枢神経系に作用する薬物
第９回	循環器系に作用する薬物
第 10 回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第 11 回	物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬
第 12 回	救急の際に使用される薬物、漢方薬
第 13 回	特別講義　薬物乱用について
第 14 回	消毒薬　輸液製剤・輸血剤　看護業務に必要な薬の知識
第 15 回	薬理学　まとめ

【評価方法】
終講試験

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進【3】薬理学　　医学書院

【備考】
特別講義：看護科１年生を対象にした薬物に関する講義を行う。試験の範囲には入らない。

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
病因論　病理学	1	１（３０時間のうち１４時間）	専門基礎分野	枝光　理

【授業の目的・ねらい】

患者に起っている病理的状態の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	病理学で学ぶこと
第２回	細胞・組織の損傷と修復、炎症
第３回	免疫、移植と再生医療
第４回	感染症
第５回	循環障害
第６回	代謝障害、老化と死
第７回	腫瘍

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進【1】病理学　　医学書院

【評価方法】
終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
病因論　微生物学	1	1（30 時間のうち 16 時間）	専門基礎分野	大隈　光信

【授業の目的・ねらい】

患者に起っている病理的状態の理解に必要な、疾病の成り立ちについての基礎的知識として、病因と病態の特徴を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	新型コロナ感染症について
第２回	院内感染と細菌の性質
第３回	感染経路と滅菌・消毒
第４回	感染に対する生体防御機構
第５回	病原細菌と細菌感染症（１）
第６回	細菌感染症（２）と真菌感染症
第７回	原虫感染症とウイルス感染症（１）
第８回	ウイルス感染症（２）

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復促進【4】　微生物学　　医学書院

【評価方法】
終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅰ 呼吸器・血液系	1	1（30 時間のうち１4 時間）	専門基礎分野	丸山　正夫

【授業の目的・ねらい】

呼吸器・血液系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	呼吸器疾患　構造と機能、検査
第２回	呼吸器疾患　症状と検査、治療
第３回	呼吸器疾患　症状と検査、治療
第４回	呼吸器疾患　検査と治療
第５回	肺がん　血液疾患の検査
第６回	血液疾患の検査と治療
第７回	血液疾患の検査と治療

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学【2】　呼吸器　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学【4】　血液・造血器　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅰ 内分泌・代謝・感染・アレルギー	1	１０月～ １１月	1（30時間のうち16時間）	専門基礎分野	名 取 省 一

【授業の目的・ねらい】

内分泌・代謝系の疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	内分泌代謝各論
第２回	内分泌代謝各論
第３回	内分泌代謝各論
第４回	膠原病・感染症・アレルギー
第５回	内分泌代謝疾患の各論
第６回	内分泌代謝
第７回	内分泌代謝
第８回	感染症

【評価方法】

終講試験

【備考】

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅱ　消化器系	1	1（30 時間のうち２０時間）	専門基礎分野	坂田　研二 福森　一太

【授業の目的・ねらい】

消化器系の疾患に関して病態・治療・検査予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	①　消化器の構造と機能（食道・大腸）
第２回	②　消化器の構造と機能（肝・胆・膵）
第３回	③　症状とその病態生理
第４回	④　診療と診断の流れ
第５回	⑤　治療と処置
第６回	⑥　食道疾患　胃十二指腸疾患
第７回	⑦　腸、腹膜疾患
第８回	⑧　肝疾患
第９回	⑨　胆,膵疾患、腹部外傷
第１０回	⑩　模擬試験

【使用テキスト】

専門分野Ⅱ　成人看護学【5】　消化器　　医学書院

【評価方法】

終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅱ腎･泌尿器系	1	1（30 時間のうち１０時間）	専門基礎分野	熊谷　壽二

【授業の目的・ねらい】

腎・泌尿器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	腎泌尿器の構造と機能
第２回	症状と病態生理
第３回	検査と治癒
第４回	疾患の理解
第５回	まとめ

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学【8】腎・泌尿器　　医学書院

【評価方法】
終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅲ 循環器系	２	１（３０）	専門基礎分野	紫原美和子　貞松研二 牟田真人　　前田高暢

【授業の目的・ねらい】
循環器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	①循環器概論 ②心臓の構造・機能
第２回	症状とその病態生理（１）
第３回	症状とその病態生理（２） ①問診・身体所見のとり方
第４回	検査
第５回	検査
第６回	治療・処置（１）
第７回	治療・処置（２）
第８回	虚血性心疾患（１）
第９回	虚血性心疾患（２）
第 10 回	心不全・血圧
第 11 回	不整脈（１）
第 12 回	不整脈（２）
第 13 回	弁膜症・心膜疾患・心筋疾患
第 14 回	動脈・静脈・リンパ系疾患
第 15 回	先天性心疾患・総括

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　　医学書院
系統看護学講座　専門分野　　成人看護学【3】　　循環器　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 脳・神経系	２	１（１２）	専門基礎分野	山下　伸 江藤　朋子

【授業の目的・ねらい】
　脳・神経系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	症状と病態生理､意識障害､高次脳機能障害、運動機能障害、感覚機能障害
第２回	頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア 神経系の補助検査法
第３回	脳血管障害、脳腫瘍
第４回	頭部外傷、水頭症、感染症
第５回	神経、筋疾患、脱髄・変性疾患、中毒、てんかん、 認知症　ニューロパチー
第６回	まとめ（脳神経各論）

【使用テキスト】
　系統看護学講座　専門分野　成人看護学【7】脳・神経　　医学書院

【評価方法】
　学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 皮膚系	２	１（４）	専門基礎分野	岡　毅

【授業の目的・ねらい】
感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	皮膚の発疹学、検査、処置 皮膚疾患総論
第２回	皮膚疾患各論

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【12】皮膚　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 眼　系	2	1（4）	専門基礎分野	諸岡　居織

【授業の目的・ねらい】
　感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	全身に関わる眼疾患を中心に
第２回	全身に関わる眼疾患を中心に

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【13】眼　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 耳鼻咽喉系	２	１（６）	専門基礎分野	関　正大

【授業の目的・ねらい】
感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	系統看護学講座　専門分野　成人看護学【14】　耳鼻咽喉 医学書院　第２章～第３章
第２回	系統看護学講座　専門分野　成人看護学【14】　耳鼻咽喉 医学書院　第４章～第５章Ａ
第３回	系統看護学講座　専門分野　成人看護学【14】　耳鼻咽喉 医学書院　第５章Ｂ～第５章Ｄ

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【14】　耳鼻咽喉　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅳ 歯・口腔系	2	1（4）	専門基礎分野	前田　幸弘

【授業の目的・ねらい】
感覚器系疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	疾病各論Ⅳ（歯、口腔系）
第２回	疾病各論Ⅳ（歯、口腔系）

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【15】歯・口腔　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅴ 運動器系	２	１（１６）	専門基礎分野	金﨑　克也

【授業の目的・ねらい】
運動器疾患に関して病態・検査・治療・予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第２章　運動器と構造と機能
第２回	第３章　症状とその病態生理
第３回	第４章　診断・検査と治療・処置
第４回	第５章　ＩＡ　骨折
第５回	第５章　ＩＢ～Ｅ　脱臼、捻挫および打撲、神経の損傷、筋・腱・靭帯などの損傷
第６回	第５章　ⅡＡ・Ｂ 先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患
第７回	第５章　ⅡＣ～Ｅ　骨腫瘍および軟部腫瘍、代謝性骨疾患、腱の疾患
第８回	第５章　ⅡＦ～Ｍ　神経・筋疾患、上肢および上肢帯の疾患、脊椎の疾患、下肢および下肢帯の疾患、ロコモティブシンドロームと運動器不安症、フレイル、サルコペニア、廃用症候群

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】　解剖生理学　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【10】　運動器　医学書院

【評価方法】
学科試験

あ科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
疾病各論Ⅴ リハビリテーション論	２	１（１４）	専門基礎分野	関　誠

【授業の目的・ねらい】
　リハビリテーションの意義を理解し、機能障害や能力低下に対応できる訓練や代償方法を学び、リハビリテーション看護の方法論を習得する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第１章　リハビリテーション概論
第２回	第２章　リハビリテーション看護概論
第３回	第３章　運動器系の障害とリハビリテーション看護
第４回	第３章　運動器系の障害とリハビリテーション看護
第５回	第４章　中枢神経系の障害とリハビリテーション看護
第６回	第４章　中枢神経系の障害とリハビリテーション看護
第７回	第５章　呼吸循環系の障害とリハビリテーション看護 第６章　感覚器系の障害とリハビリテーション看護

【使用テキスト】
　系統看護学講座　別冊　リハビリテーション看護　　医学書院

【評価方法】
　学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
総 合 医 療 論	２	１（１６）	専門基礎分野	富安　信夫

【授業の目的・ねらい】
個人・集団の健康の保持・増進のための、組織的な保健活動について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	序章　コミュニケーションの原点にさかのぼる １章　医療と看護の原点－病と癒やし
第２回	２章　医療の歩みと医療観の変遷
第３回	３章　私たちの生活と健康 日本の医療について
第４回	３章　私たちの生活と健康 日本の医療について
第５回	４章　科学技術の進歩と現代医療
第６回	５章　現代医療の新たな課題
第７回	６章　医療を見つめ直す新しい視点
第８回	７章　保健・医療・福祉の潮流

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度【1】　総合医療論　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
公衆衛生	２	１（３０）	専門基礎分野	山本　賢也　藤田裕美子 鶴田由紀子　植田恵理子 宿利　周子　伊豫　良美 小林　美沙

【授業の目的・ねらい】

公衆衛生学を学ぶことを通して、個人、集団の健康の保持・増進のための、組織的な保健活動について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第１章　公衆衛生のエッセンス
第２回	第２章　公衆衛生の活動対象 第３章　公衆衛生の仕組み
第３回	第４章　集団の健康をとらえるための手法―疫学・保健・統計
第４回	第５章　環境と健康
第５回	第６章　感染症とその予防対策
第６回	第７章　国際保健 第９章　学校と健康
第７回	第９章　学校と健康 第１０章　職場と健康
第８回	第１１章　健康危機管理・災害保険、まとめ
第 9 回	第８章　母子保健
第 10 回	第８章　母子保健　歯科保健
第 11 回	第８章　高齢者保健
第 12 回	第８章　精神保健
第 13 回	第８章　障害者保健・難病保健
第 14 回	第３章　CDE 第８章　A 公衆衛生看護、C がん看護
第 15 回	第８章　成人保健

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度【2】　　公衆衛生　　医学書院

国民衛生の動向

【評価方法】　学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
関係法規	２	１（３０）	専門基礎分野	山下一幸

【授業の目的・ねらい】

法令の基本となる、保健師助産師看護師法について理解し、看護師の法的責任と義務を習得する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第２章　看護法
第２回	第３章　医事法
第３回	第４章　保健衛生法
第４回	第４章　保健衛生法
第５回	第４章　保健衛生法
第６回	第４章　保健衛生法（精神保健福祉法のみ）
第７回	第５章　薬務法
第８回	第７章　社会保険法
第９回	第７章　社会保険法
第 10 回	第７章　社会保険法
第 11 回	第７章　社会保険法（介護保険法のみ）
第 12 回	第８章　福祉法
第 13 回	第８章　福祉法
第 14 回	第９章　労働法と社会基盤整備環境法
第 15 回	第 10 章　環境法 第６章　環境衛生法

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度【4】看護関係法令　　医学書院

【評価方法】

学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
社会福祉	２	１（３０）	専門基礎分野	夏目　尚

【授業の目的・ねらい】

（１）人々の生涯を通じて起こる健康や障害をめぐる問題の、社会構造的な側面について理解する。

（２）そのような問題の当事者のニーズに対応した社会資源を活用できるように、必要な知識と基礎的な能力を養う内容とする。

（３）そのための保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	イントロダクション　社会保障制度と社会福祉
第２回	現代社会の変化と社会保障・社会福祉
第３回	医療保障制度（１）
第４回	医療保障制度（２）
第５回	介護保険制度（１）
第６回	介護保険制度（２）
第７回	所得保障制度
第８回	公的扶助
第９回	社会福祉制度（１）～高齢者～
第 10 回	社会福祉制度（２）～障害者①～
第 11 回	社会福祉制度（３）～障害者②～
第 12 回	社会福祉制度（４）～児童～
第 13 回	ソーシャルワーク
第 14 回	社会福祉の歴史
第 15 回	まとめ　国家試験対策

【使用テキスト】

系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障【3】社会保障・社会福祉　　医学書院

【評価方法】

学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
看護学概論	1	1（30）	専門分野Ⅰ	小塩美枝子

[授業の目的・ねらい]

看護学を構成している各要素と看護の理論・体系について習得する。看護の機能と役割の重要性を認識し、看護活動が行えるための基盤とする。看護専門職として、ふさわしい人間性を育む。

[授業計画]

回数	講　義　内　容
第1回	健康の捉え方 1）健康とは　　2）自分の生活から見えること
第2回	看護の対象の理解 1）人間の「こころ」と「からだ」
第3回	看護の対象の理解 1）人間の発達
第4回	健康の捉え方 1）生活と健康
第5回	看護とは‥‥看護理論
第6回	看護とは
第7回	看護とは
第8回	看護とは 看護師とは何をする人なのか
第9回	看護の提供者 1）職業としての看護・看護師の養成制度
第10回	看護における倫理 1）医療をめぐる倫理　　2）看護実践における倫理
第11回	看護の提供のしくみ 1）看護サービス　　2）看護をめぐる制度と政策
第12回	看護の提供のしくみ 1）看護管理　　2）医療安全
第13回	広がる看護の活動領域 1）国際化と看護
第14回	看護の活動領域 災害看護　「人間の尊厳とは」
第15回	「遺体」

[テキスト]　系統看護学講座　専門分野Ⅰ　看護学概論　　別巻　看護史　看護倫理

[評価]　終講試験・小テスト・課題・出席状況

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
基礎看護学援助論Ⅰ	1	４月～	１（３０）	専門分野Ⅰ	大町福美

【授業の目的・ねらい】
日常生活行動援助技術について学習する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	イントロダクション（講義についてオリエンテーション） 看護技術とは何か（看護実践の構成要素、アートとサイエンス、EBN（科学的根拠）） 看護実践と看護技術の繋がりについて考える
第２回	快適な環境をつくる援助技術 人間にとっての環境の意味、闘病意欲を高める環境について看護の視点からアセスメント
第３回 第４回	食事・栄養摂取を促す援助技術（消化器系、呼吸と嚥下） 人間にとっての食事の意味、栄養と食事のニーズを充足させるための基礎的知識と援助 健康のレベル・食事行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズを充足させる方法について、 看護の視点から考え、効果的援助を説明（事例演習）
第５回 第６回	排泄を促す援助技術 排尿・排便に関するメカニズム、意義 健康的な生活を送る為に必要な援助を説明（事例演習）
第７回	基本的活動を促す援助技術 基本的活動の基礎知識、体位、移動
第８回	睡眠・休息を促す援助技術 人の休息・睡眠の意義とそのメカニズム、必要性に応じた休息・睡眠のとり方 休息・睡眠に関する障害についてアセスメント、援助を考える
第９回	苦痛の緩和・安楽かつ快適さをもたらす援助技術 体位保持、罨法、身体ケアの結果もたらされる安楽
第 10 回 第 11 回	身体の清潔・衣生活援助技術 皮膚粘膜の保護、清潔保持に関する生理学的メカニズム 健康な生活を送るために必要な援助、清潔に関するニーズのアセスメントと援助 衣生活に関するニーズのアセスメントと援助（事例演習）技術演習に向けた事例提示
第 12 回	演習準備 演習計画の立案（個人、グループワーク）
第 13 回 第 14 回	技術演習の実際（別館）内容については後日伝える
第 15 回	技術演習の振り返り 総まとめ

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術【Ⅰ】(医学書院)、
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術【Ⅱ】(医学書院)

【評価方法】
終講試験（80%)、講義・演習時の態度、提出物、小テスト（20%）

【備考】
予習・復習をして講義に参加する。
講義、グループワーク、技術演習、小テストにより知識の確認を行いながら進める。
課題は提出日に必ず提出すること(評価対象とする)。提出日の遅れは減点対象とする。
講義の進行状況により、内容を適宜変更することがある。

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
基礎看護学援助論Ⅱ	１	９～２	１（３０）	専門分野Ⅰ	福田　美穂

【授業の目的・ねらい】

スクリーニング及び治療関連技術について学習する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	単元についての説明 協同学習 ジグソー学習グループ作り、演習内容選択 普通救命講習オリエンテーション、事前学習提示
第２回	専門家チーム教材研究 「排痰ケア」「吸引」「吸入」「酸素吸入」 「人工呼吸器」「胸腔ドレナージ」 「末梢循環促進ケア」「創傷処置、褥瘡予防・ケア」
第３回	専門家チーム教材研究 「排痰ケア」「吸引」「吸入」「酸素吸入」「人工呼吸器」「胸腔ドレナージ」「末梢循環促進ケア」 「創傷処置、褥瘡予防・ケア」
第４回 第５回	演習 専門家チーム教材研究 「排痰ケア」「吸引」「吸入」「酸素吸入」「人工呼吸器」「胸腔ドレナージ」「末梢循環促進ケア」 「創傷処置、褥瘡予防・ケア」
第６回	専門家チーム教材研究 「与薬」「診察・検査・処置の介助技術」 「心電図」
第７回	専門家チーム技術確認 「与薬」「診察・検査・処置の介助技術」 「心電図」
第８回 第９回	専門家チーム教授 「与薬」「診察・検査・処置の介助技術」 「心電図」
第 10 回	感染防止の技術
第 11 回	コミュニケーション、学習支援
第 12 回	コミュニケーション、学習支援　発表会
第 13 回	死の看取りの援助
第 14 回第 15 回	救命救急処置技術

【評価方法】

試験（８０％）、授業態度（２０％）（協同学習・グループワークでの参加および貢献度、提出物、出席状況など）

【備考】

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
基礎看護学援助論Ⅲ	１	１０月～２月	１（３０）	専門分野Ⅰ	冨松　高司、永江　久訓 髙原　修一

【授業の目的・ねらい】
主要症状の発生メカニズムを理解した上で、治療の基本および援助の方法について学ぶ。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	イントロダクション・臨床看護に求められるもの
第２回	栄養・代謝・排泄に関連する症状を示す 対象者への看護
第３回	活動や休息・コーピングに関連する症状を示す 対象者への看護
第４回	認知や知覚に関連する症状を示す 対象者への看護
第５回	循環、呼吸に関連する症状を示す 対象者への看護
第６回	安全や生体防御機能、安楽に関連する症状を示す 対象者への看護
第７回	事例による看護実践の展開
第８回	治療処置を受ける対象者への看護
第９回	治療処置を受ける対象者への看護
第 10 回	手術療法を受ける対象者への看護
第 11 回	症状からの病態アセスメントと看護
第 12 回	医療機器の原理と実際
第 13 回	事例による患者のアセスメント
第 14 回	事例による看護実践の展開（演習）
第 15 回	事例による看護実践の展開（演習）

【評価方法】
授業への参加度、課題提出、演習評価、記述による終講試験を合計し本授業の評価とする。
評価責任者：髙原修一

【備考】

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
基礎看護学援助論Ⅳ	1	１１～３月	１（３０）	専門分野Ⅰ	城戸順子

【授業の目的・ねらい】看護の技術を総合して、患者に合った看護過程の展開が理解できる。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	看護過程の構成要素 「問題解決過程」「クリティカルシンキング」「倫理的配慮と価値判断」 「リフレクション」
第２回	看護過程の各段階　　「アセスメント」　　（情報の収集・情報の分析）
第３回	看護過程の各段階　　「アセスメント」 講義・演習：ヘンダーソン 14 の基本的ニーズに基づく枠組みによる アセスメント（１～７）
第４回	看護過程の各段階　　「アセスメント」 講義・演習：ヘンダーソン 14 の基本的ニーズに基づく枠組みによる アセスメント（８～１４）
第５回	看護過程の各段階　　「アセスメント」 講義・演習：全体像の描写・関連図作成
第６回	看護過程の各段階　　「看護問題の明確化（看護診断）」 講義・演習：看護問題の優先順位検討・問題リスト作成
第７回	看護過程の各段階　　「計画」 講義・演習：「看護問題」ごとに「期待される成果」を設定
第８回	看護過程の各段階　　「計画」 講義・演習：「看護介入計画」立案
第９回	看護過程の各段階　　実施 講義・演習：模擬患者状況場面について ①当日の援助計画　②実施後の経過記録：SOAP 法）
第 10 回	看護過程の各段階　　評価 講義・演習：紙面上事例による看護過程の展開　（評価）
第 13 回	NANDA・NIC・NOC の連動　看護診断ハンドブック ゴードンの枠組みを用いてアセスメントした看護診断のプロセス
第 14 回	看護記録 ①看護記録とは　②記載・管理における留意点　③看護記録の構成
第 15 回	まとめ

【評価方法】終講試験、授業態度、提出物　　【備考】進行状況により、内容を適宜変更することがある。

使用するテキスト

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程　看護計画立案モデル（4）（ヌーベルヒロカワ）

経過が見える疾患別病態関連マップ（2）（学研）

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
基礎看護学援助論Ⅴ	２	１（３０）	専門分野Ⅰ	冨松　高司 藤﨑　智文

【授業の目的・ねらい】
ヘルスアセスメントの基礎を学び、対象のフィジカルアセスメントが実践できる。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	ヘルスアセスメントとは 　意義と目的 　必要な技術（問診・視診・触診・聴診・打診）
第２回	ヘルスアセスメントの実際 　全体を観察する（バイタルサイン） バイタルサインのアセスメント 　体温、血圧、意識レベル、頭頸部　呼吸器系
第３回	呼吸器系のフィジカルアセスメント
第４回	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント
第５回	循環器系のフィジカルアセスメント
第６回	循環器系のフィジカルアセスメント
第７回	腹部のフィジカルアセスメント
第８回	腹部　栄養のフィジカルアセスメント
第９回	乳房・腋窩　（自己診断）のフィジカルアセスメント 神経系　感覚系のフィジカルアセスメント
第１０回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント
第１１回	心理・社会状態のアセスメント
第１２回	フィジカルアセスメント概論 バイタルサインのフィジカルアセスメント
第１３回	バイタルサインのフィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント
第１４回	系統別フィジカルアセスメント 心理・社会状態のフィジカルアセスメント
第１５回	事例アセスメント

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学【2】基礎看護技術Ⅰ　医学書院
はじめてのヘルスアセスメント　メジカルフレンド
【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
成人看護学概論	1	1（30）	専門分野Ⅱ	河口　喜代美

【授業の目的・ねらい】
　成人期の持つ意義を理解し、成人期の特徴に基づいた健康問題および終末期における看護のあり方を総合的に理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	対象の理解 　発達課題　　エリクソン　ハヴィーガースト
第２回 第３回	生活と健康 　健康格差
第４回	成人への看護アプローチの基本
第５回	看護実践における倫理的判断 意思決定支援 ヘルスプロモーションと看護
第６回	健康をおびやかす要因と看護
第７回	健康レベルに対応した看護 　健康生活の急激な破綻から回復を促す看護
第８回	健康レベルに対応した看護 　慢性病との共存を支える看護
第９回	健康レベルに対応した看護 　障害がある人の生活とリハビリテーション
第１０回	健康レベルに対応した看護 　人生の最後のときを支える看護
第１１回	学習者である患者への看護技術 　エンパワメント-エデュケーション　セルフマネジメント
第１２回	治療過程にある患者への看護技術
第１３回	症状マネジメントにおける看護
第１４回	療養の場を移行する人々への看護技術
第１５回	新たな治療法・先端医療と看護　まとめ

【評価方法】授業態度、忘れ物、課題提出状況、学科試験にて評価

【使用テキスト】専門分野Ⅱ成人看護学総論

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
成人看護学援助論Ⅰ	1	1（30）	専門分野Ⅱ	平部　弥美 唯井　　香

【授業の目的・ねらい】
健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開でき総合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	腎・泌尿器　疾患看護
第２回	腎・泌尿器　疾患看護
第３回	腎・泌尿器　疾患看護
第４回	腎・泌尿器　疾患看護
第５回	アレルギー、膠原病、感染症疾患看護
第６回	呼吸器　疾患看護
第７回	呼吸器　疾患看護
第８回	成人看護学⑤　消化器　第１章　第６章
第９回	成人看護学⑤　消化器　第６章
第１０回	成人看護学⑤　消化器　第６章
第１１回	成人看護学⑤　消化器　第６章
第１２回	成人看護学⑥　内分泌・代謝　第１章　第６章
第１３回	成人看護学⑥　内分泌・代謝　第６章　成人看護学④第１章
第１４回	成人看護学④　第５章　血液・造血器
第１５回	事例による看護過程の展開②

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学【4】血液・造血器　　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学【5】消化器　　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学【6】内分泌・代謝　　医学書院

【評価方法】
終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
成人看護学援助論Ⅱ	２	１（３０）	専門分野Ⅱ	嶋田　健二 大瀬　栄理 大倉　ゆりえ

【授業の目的・ねらい】
健康上の多様な問題を明確化して、対象および家族への援助を理解し、病態・治療に応じた看護過程を展開でき、総合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	女性生殖器患者の特徴 問題への援助
第２回	疾患をもつ患者の看護 外来・病棟における看護
第３回	症状と病態に対する看護 疾患患者の看護
第４回	運動器成人看護⑩ 第１章運動器の看護を学ぶにあたって、第６章患者の看護
第５回	第６章患者の看護 A 疾患をもつ患者の経過と看護、C 症状に対する看護、 ②関節リウマチ患者の経過と看護、③クラッシュシンドローム
第６回	第６章患者の看護、C 症状に対する看護③クラッシュシンドローム G 疾患をもつ患者の看護⑤関節リウマチ患者の看護
第７回	第１章循環器の看護を学ぶにあたって 第６章患者の看護 A～B
第８回	第６章患者の看護 C～D
第９回	第６章患者の看護 E
第 10 回	第６章患者の看護 F
第 11 回	第１章脳・神経の看護を学ぶにあたって 第６章　患者の看護 A～B
第 12 回	第６章患者の看護　B～C
第 13 回	第６章患者の看護 D
第 14 回	看護過程の展開
第 15 回	看護過程の展開

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【3】　循環器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【7】　脳・神経　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【9】　女性生殖器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【10】　運動器　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
老年看護概論	１	４～１０	１（３０）	専門分野Ⅱ	岩屋　弓子

【授業の目的・ねらい】

老年期にある対象の変化を知り、老年のための保健・医療・福祉サービスの課題を理解し、看護の役割を理解する。

【授業計画】

	講義内容
第１回	老いを学ぶ入り口 「老いのイメージ」 「自分が７０歳になったら」
第２回	「老いのイメージ」 「自分が７０歳になったら」　発表
第３回	老いるということ 身体的　精神的
第４回	老いを生きるということ 社会的　ＤＶＤ　親を看取る
第５回	高齢社会と社会保障① 高齢社会の統計的輪郭 高齢社会における保健医療福祉の動向
第６回	高齢社会と社会保障② 介護保険制度
第７回	高齢社会と社会保障③ 虐待 高齢社会における権利擁護
第８回 第９回	老年看護の理念 老年看護のなりたち 老年看護の役割
第 10 回	高齢者を理解するために 高齢者の暮らし
第 11 回	高齢者を理解するために ＤＶＤ　戦後史　日本の歩み
第 12 回 第 13 回	事例 看護過程 発表、まとめ
第 14 回	老年看護における理論の活用
第 15 回	老年看護に携わる者の責務・まとめ

【評価方法】

試験、授業態度、提出物（レポート、課題）　グループワーク課題

【備考】　教科書　医学書院　老年看護学　老年看護　病態・疾患論

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
老年看護学援助論Ⅰ	２	１（３０）	専門分野Ⅱ	喜多村　恭子

【授業の目的・ねらい】
老年期に特有な看護技術を身につけ日常生活の適応に向けての援助を習得する。
【授業計画】

回数	講義内容
第１回	老年看護学 第４章　高齢者のヘルスアセスメント
第２回	第４章　高齢者のヘルスアセスメント
第３回	第４章　高齢者のヘルスアセスメント
第４回	第５章　高齢者の生活機能を整える看護
第５回	第５章　高齢者の生活機能を整える看護
第６回	第５章　高齢者の生活機能を整える看護
第７回	第５章　高齢者の生活機能を整える看護
第８回	第５章　高齢者の生活機能を整える看護
第９回	第６章　健康逸脱からの回復を促す看護
第 10 回	第６章　健康逸脱からの回復を促す看護
第 11 回	第６章　健康逸脱からの回復を促す看護
第 12 回	第６章　健康逸脱からの回復を促す看護
第 13 回	第６章　健康逸脱からの回復を促す看護
第 14 回	老年看護　病態・疾患論 第３章　高齢者の健康状態の把握と総合機能評価
第 15 回	老年看護　病態・疾患論 第３章　高齢者の健康状態の把握と総合機能評価

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　　老年看護学　　医学書院
系統看護学講座　専門分野　　老年看護病態・疾患論　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
老年看護学援助論Ⅱ	２	１（３０）	専門分野Ⅱ	江川　陽子

【授業の目的・ねらい】
老化と疾病・障害の程度に応じた看護を実践する方法を身につける。
【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第４章　高齢者の疾患の特徴　A 認知症
第２回	第４章　高齢者の疾患の特徴　B 精神・神経疾患
第３回	第４章　高齢者の疾患の特徴　C 循環器系の疾患
第４回	第４章　高齢者の疾患の特徴　D 呼吸器系の疾患
第５回	第４章　高齢者の疾患の特徴　E 消化器系の疾患
第６回	第４章　高齢者の疾患の特徴　F 内分泌・代謝系の疾患、膠原病
第７回	第４章　高齢者の疾患の特徴　G 自己免疫疾患、血液の疾患
第８回	第４章　高齢者の疾患の特徴　E 腎・泌尿器系の疾患
第９回	第４章　高齢者の疾患の特徴　J 運動器の疾患
第 10 回	第４章　高齢者の疾患の特徴　K 皮膚の疾患、感覚器の疾患
第 11 回	第４章　高齢者の疾患の特徴　M 歯・口腔の疾患、感染症
第 12 回	高齢者の看護　高齢者と薬 高齢者のリハビリテーション　エンドオブライフケア
第 13 回	エンドオブライフケア、生活、療養の場における看護 高齢者のリスクマネジメント
第 14 回	看護過程の展開
第 15 回	

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　　老年看護学　　医学書院
系統看護学講座　専門分野　　老年看護病態・疾患論　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
小児看護学概論	1	４～９	１（３０）	専門分野Ⅱ	福田　美穂

【授業の目的・ねらい】

成長発達の途上にある小児の特徴を理解し、小児の健康保持・増進・疾病予防などの対策と家族を含めた小児看護の役割と機能を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	子どものイメージ
第２回	小児看護の対象 小児看護の目標
第３回	小児看護の変遷と課題 小児看護の場と特徴 小児看護の諸統計
第４回	子どもの人権
第５回	小児看護における理論
第６回	子どもの成長と発達①
第７回	子どもの成長と発達② 子どもと家族を取り巻く社会
第８回	子どもと家族を取り巻く社会 病院ラジオ
第９回	子どもの成長と発達③ （新生児・乳児期・学童期・思春期・青年期）
第 10 回	児童虐待を受けた小児と家族の看護
第 11 回	子どもの成長と発達④ （新生児・乳児期・学童期・思春期・青年期）
第 12 回	子どもの事故
第 13 回	遊びによる医療的説明 プレパレーション、ディストラクション メディカルプレイ（プレイプレパレーション）
第 14 回	家族の特徴とアセスメント
第 15 回	

【評価方法】

試験、授業態度（提出物、出席状況など）

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
小児看護学方法論	1	４月～９月	１（３０）	専門分野Ⅱ	古賀 龍夫　松浦 稔展 棚成 嘉文　坂西 信平

【授業の目的・ねらい】
健康障害をもつ小児各期にある対象の特徴について学び、対象である小児のみならず、周囲の環境と関連させながら理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第 5 章　免疫疾患、アレルギー性疾患、 リウマチ性疾患と看護
第２回	第 3 章　代謝性疾患と看護
第３回	第 1 章　染色体異常、胎内環境により発症する 先天異常と看護
第４回	第 7 章　呼吸器疾患と看護
第５回	第 18 章　精神疾患と看護
第６回	第 10 章　血液造血器疾患と看護
第７回	第 6 章　感染症と看護
第８回	心身症と看護　終末期を在宅で過ごす児の看護
第９回	第 4 章　内分泌疾患と看護 第 12 章　腎・泌尿器および生殖器疾患と看護
第１０回	第 2 章　新生児の看護
第１１回	第 11 章　悪性新生物と看護 第 13 章　神経疾患と看護
第１２回	第 9 章　消化器疾患と看護
第１３回	第 8 章　循環器疾患と看護 第 16 章　眼疾患と看護
第１４回	第 14 章　運動器疾患と看護 第 15 章　皮膚疾患と看護
第１５回	第 17 章　耳鼻咽喉疾患と看護

【評価方法】
終講試験

【使用するテキスト】

系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学【1】小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院
系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学【2】　小児臨床看護各論　医学書院

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
小児看護学援助論	1	1（３０）	専門分野Ⅱ	二宮　潤子 眞木　めぐみ

【授業の目的・ねらい】
小児期の成長発達・健康維持から生じる健康問題に対する看護の具体的方法を学び、小児看護の特徴を踏まえた看護過程を展開し、統合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第一章　病気・障害を持つ子どもと家族の看護 第七章　障害のある子どもと家族の看護
第２回	第二章　子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護
第３回	第三章　子どもにおける疾病の経過と看護
第４回	第四章　子どものアセスメント
第５回	第五章　症状を示す子どもの看護
第６回	第六章　検査・処置を受ける子どもの看護
第７回	第六章　検査・処置を受ける子どもの看護　DVD
第８回	第１章　染色体異常、体内環境により発症する異常と看護 第２章　新生児の看護 第３章　代謝性疾患と看護
第９回	第４章　内分泌疾患と看護 第５章　免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ疾患と看護 第６章　感染症と看護
第 10 回	第７章　呼吸器疾患と看護　第８章　循環器疾患と看護 第９章　消化器疾患と看護
第 11 回	第９章　消化器疾患と看護　第 10 章　血液・造血器疾患と看護 第 11 章　悪性新生物と看護　第 12 章　腎・泌疾患　生殖器疾患と看護
第 12 回	第 13 章　神経疾患と看護　第 14 章　運動器疾患と看護 第 15 章　皮膚疾患と看護
第 13 回	第 16 章　眼疾患と看護　第 17 章　耳鼻咽喉疾患と看護 第 18 章　精神疾患と看護
第 14 回	事例　看護過程グループワーク
第 15 回	事例　看護過程グループワーク

【使用テキスト】
系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学【1】小児看護学概論　小児臨床看護総論　　医学書院
系統看護学講座専門分野Ⅱ　小児看護学【2】　小児臨床看護各論　　医学書院
【評価方法】
終講試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
母性看護学概論	1	１（３０）	専門分野Ⅱ	大町福美

【授業の目的・ねらい】
　女性の社会的役割の変化を関連させ、母性の各期における特性の保健を学び、母性看護の果たす役割を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	母性看護の基盤となる概念 　　母性看護の中心となる概念、母子に関連する理論、母性看護の視点 　　母性看護の実践を支える概念
第２回	リブロダクティブヘルスに関する概念 ヘルスプロモーション
第３回	母性看護の歴史的変遷と現状、母子保健統計の動向と施策
第４回	母性看護の組織と法律、対象を取り巻く環境
第５回 第６回	生殖生理（生殖器の解剖、機能）ホルモンの生理
第７回	女性のライフサイクル（家族）
第８回 第９回	母性看護に必要な看護技術（看護過程他）
第 10 回 第 11 回	女性のライフステージ各期における健康と看護（加齢によるホルモンの変化）
第 12 回	①リプロダクティブヘルスケアと倫理（生命倫理、専門職者倫理） 　　家族計画、性感染症と予防、HIV、出生前診断、人工妊娠中絶
第 13 回	②リプロダクティブヘルスケアと倫理 　　性暴力、児童虐待・・実態と対策、予防
第 14 回	③リプロダクティブヘルスケアと倫理 　　不妊症と生殖補助医療 　（不妊カップルの心理・社会的反応、不妊カップルの自己決定）
第 15 回	まとめ

【使用テキスト】
　系統看護学講座　専門分野　母性看護学【Ⅰ】母性看護学概論（医学書院）
　系統看護学講座　専門分野　母性看護学【Ⅱ】母性看護学各論（医学書院）

【評価方法】
　終講試験（80%）、講義・演習への参加状況、小テスト、レポート等の提出物（20%）

【備考】
　講義、グループワーク、小テストによる知識の確認を行いながら進める。
　予習・復習をしっかり行い講義に出席すること。
　進行状況により、内容を適宜変更することがある。

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
母性看護学方法論	２	１（３０）	専門分野Ⅱ	河野　亮介 山田　空明 堀　　洋暢 杉　悠

【授業の目的・ねらい】
妊娠・分娩・産褥時の母子の生理的な変化について理解し、正常経過の観察、全経過を通じての包括的看護について理解する。また、女性生殖器系の疾患に関して病態・検査・治療予後を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	女性生殖器の機能
第２回	妊娠の生理
第３回	症状とその病態生理
第４回	妊娠の生理
第５回	妊娠の異常と看護
第６回	妊娠期における看護
第７回	NIPT について
第８回	練習問題
第９回	練習問題
第 10 回	出世以前診断について、課題の復習
第 11 回	課題復習
第 12 回	課題復習　異常分娩
第 13 回	課題復習　ハイリスク妊娠
第 14 回	流産・死産
第 15 回	出生前診断

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能【1】解剖生理学　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学【9】　女性生殖器
系統看護学講座　専門分野　母性看護学【1】　母性看護学概論　医学書院
系統看護学講座　専門分野　母性看護学【2】　母性看護学各論　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
母性看護学援助論	２	１（３０）	専門分野Ⅱ	本多　文

【授業の目的・ねらい】
母性における健康障害・健康問題について看護の方法を理論的に学び、女性をふまえた看護過程を展開し、総合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	子どもを産み育てるということ　不妊の看護
第２回	妊婦と胎児のアセスメント
第３回	妊婦と家族の看護
第４回	分娩期における看護
第５回	分娩期の看護の実際
第６回	新生児期における看護
第７回	褥婦期における看護
第８回	異常のある産婦の看護
第９回	新生児の異常と看護
第 10 回	異常のある褥婦の看護、精神障害合併妊婦の看護
第 11 回	沐浴・授乳デモンストレーション
第 12 回	沐浴・授乳デモンストレーション
第 13 回	事例による看護の課程の展開
第 14 回	事例による看護の課程の展開
第 15 回	まとめ

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　母性看護学【1】　母性看護学概論　医学書院
系統看護学講座　専門分野　母性看護学【2】　母性看護学各論　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
精神看護学概論	1	１（３０）	専 門 分 野Ⅱ	藤岡　賢至

【授業の目的・ねらい】
　ライフサイクルにおける、心の発達と健康について学び、精神看護の目的・対象・看護の機能と役割について理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	導入　オリエンテーション 第１章　精神看護学で学ぶこと A 精神看護とは何か
第２回	第１章　精神看護学で学ぶこと B　精神障害を持つ人の病の体験と精神看護
第３回	第１章　精神看護学で学ぶこと C　「心のケア」と日本社会
第４回	第１章　精神看護学で学ぶこと D　精神看護の課題
第５回	第２章　精神保健の考え方 A　精神の健康とは
第６回	第２章　精神保健の考え方 B　心身の健康に及ぼすストレスの影響
第７回	第２章　精神保健の考え方 C　心的外傷と回復
第８回	第２章　精神保健の考え方 D　精神障害というとらえ方
第９回	これまでの講義内容の振り返り
第１０回	第７章　社会の中の精神障害 A　精神障害の治療と歴史
第１１回	第７章　社会の中の精神障害 B　日本における精神医学・精神医療の流れ
第１２回	第７章　社会の中の精神障害 C　精神障害と文化　D　精神障害と社会学
第１３回	第７章　社会の中の精神障害 E　精神障害と法制度
第１４回	第７章　社会の中の精神障害 F　主な精神保健医療福祉対策とその動向
第１５回	これまでの講義内容の振り返りとまとめ

【使用テキスト】
　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学　【１】精神看護の基礎　　医学書院
　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護学　【２】精神看護の展開　　医学書院

【評価方法】　終講試験　　講義期間中に DVD 等の視聴を行い感想提出

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
精神看護学方法論	２	Ⅰ（３０）	専門分野Ⅱ	辻　克郎 冨松　健太郎 増本　政也

【授業の目的・ねらい】
　精神障害者の発症の特徴と主な疾患の原因・診断・治療について理解し、看護に活かすことができる。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	総論
第２回	総論２
第３回	総論３
第４回	総論４
第５回	総論５
第６回	総論６
第７回	てんかんについて
第８回	神経症状論と状態像
第９回	精神障害の診断と分類、統合失調症
第 10 回	気分障害
第 11 回	神経性障害、ストレス関係、障害および身体表現性障害
第 12 回	器質性精神障害（神経認知障害群）
第 13 回	精神作用物質による精神および行動の障害
第 14 回	精神科での治療
第 15 回	まとめ他

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　精神看護学【1】　精神看護の基礎　医学書院
系統看護学講座　専門分野　精神看護学【2】　精神看護の展開　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
精神看護学援助論	２	１（３０）	専門分野Ⅱ	永松　祐二 野母　武

【授業の目的・ねらい】
患者と看護者関係の成立・発達・発展させるための方法を理解し、精神に障害をもつ患者の看護過程を展開し、総合的な看護の視点を養う。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	第８章　ケアの人間関係 ケアの原則・方法について考えながら、対人関係の基本的な考えを学習する。
第２回	第８章　ケアの人間関係 対人関係の基本的な考えを学習し患者―看護師間でおこることについて学習する。
第３回	第９章　回復を助ける 回復の意味、回復を支える様々なプログラムについて学習する
第４回	第９章　回復を助ける 入院治療の目的と意味を理解し、安心できる治療的環境について学習する。
第５回	第１０章　安全を守る リスクマネジメントの考え方と方法を理解し、緊急事態（自殺・暴力・無断離院）の対策について学習する。
第６回	第１１章　身体をケアする 精神科の治療と身体のケアについて学習する。
第７回	第１２章　サバイバーとしての患者とそのケア 第１３章　地域における精神保健と精神看護 精神障害を持ちながら地域で暮らす人を支えることについて学習する。
第８回	第１３章　地域における精神保健と精神看護 生活を支える制度、学校・職場における精神保健と精神看護について学習する
第９回	第１４章　リエゾン精神看護 身体疾患を持つ患者の精神保健、リエゾン精神看護、リエゾンナースの活動について学習する。
第 10 回	終章　看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス、感情労働を理解し、その代償と社会について学習する。
第 11 回	統合失調症患者の看護展開 精神科看護対象者のコミュニケーションの特徴
第 12 回	精神看護学実習の始まり 統合失調症患者の看護（慢性期）
第 13 回	統合失調症患者の看護（慢性期） 看護計画のための情報整理
第 14 回	プロセスレコードについて
第 15 回	プロセスレコードについて

【使用テキスト】
系統看護学講座　専門分野　精神看護学【1】　精神看護の基礎　医学書院
系統看護学講座　専門分野　精神看護学【2】　精神看護の展開　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
在宅看護概論	２	１（３０）	統合分野	岩屋　弓子

【授業の目的・ねらい】
地域ケアシステムにおける在宅看護の必要性・目的・対象・役割について習得する。

【授業計画】

回数	日付	講義内容	方法・使用教材など
第１回	／	在宅看護の基礎（１） 在宅看護の役割 在宅看護が必要とされる背景	講義・教科書
第２回	／	在宅看護の基礎（２） 在宅看護の理念と目的　在宅看護の特徴 在宅看護論を学ぶ目的	講義・教科書
第３回	／	在宅看護の基礎（３） 在宅看護の倫理と基本理念　ノーマライゼーション ヘルスプロモーション　　権利擁護（アドボカシー）	講義・教科書
第４回	／	在宅看護の基礎（４） 在宅看護の対象と必要援助（在宅看護の対象となる個人） 健康段階からみた対象	講義・教科書
第５回	／	保健医療福祉対策と在宅看護 高齢者保健福祉対策 在宅ケア体制と看護活動	講義・教科書
第６回	／	発達段階からみた対象 家族と在宅看護（ケアの単位としての家族） コミュニティーケア	講義・教科書
第７回	／	家族と在宅看護（ケアの単位としての家族） コミュニティーケア・DVD「ささえあうたしかな手」	講義・教科書 DVD
第８回	／	在宅看護に必要な社会資源 在宅看護を支える保健・医療・福祉　ケアマネージメント チームアプローチ	講義・教科書
第９回	／	訪問看護の役割と機能 訪問看護のシステム　生活の場における看護	講義・教科書
第10回	／	自立を支援する看護　住まい方と健康	講義・教科書
第11回	／	訪問看護の実際 生活を支えるチームの一員としての役割	グループワーク
第12回	／	在宅看護の展開 患者と家族に対する援助の過程	グループワーク
第13回	／	在宅看護の利点と限界	講義・教科書
第14回	／	在宅看護における看護師の倫理	講義・教科書
第15回	／	在宅看護の変遷と今後の課題	講義・教科書

【評価方法】　　試験、授業出席日数、レポート、グールプワーク課題

【備考】　　系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　医学書院

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
在宅看護援助論Ⅰ	２	１（３０）	統合分野	田中　千香

【授業の目的・ねらい】
社会資源を活用し、在宅看護での展開と医療・福祉との連携やケアマネージメントについて習得する

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	訪問看護ステーションの紹介　地域との連携　事例紹介
第２回	訪問看護に関わる法令（介護保険・健康保険）
第３回	災害時における在宅看護　（　豪雨、台風、地震、津波　に備える）
第４回	在宅におけるリスクマネジメント
第５回	事例を通じて連携について学ぶ
第６回	訪問看護ステーションを作ろう。運営基準・基本理念グループ
第７回	
第８回	訪問看護ステーションを作ろう。発表
第９回	認知症、がん、ターミナル、人工呼吸器、小児　各事例の看護研究
第 10 回	
第 11 回	認知症、がん、ターミナル、人工呼吸器、小児　各事例の看護研究　発表
第 12 回	DVD 学習
第 13 回	事例のコミュニケーションについて考える すべてを見られる在宅看護「緊張って伝わる」空気を読む笑顔の意味
第 14 回	
第 15 回	総まとめ

【使用テキスト】
系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
在宅看護援助論Ⅱ	２	１（３０）	統合分野	西原　昌代 吉岡　幸愛

【授業の目的・ねらい】
　在宅看護に必要な技術を身につけ、患者・家族の抱える健康上の問題を解決するための援助方法を身につける。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	・在宅で求められる看護技術（呼吸管理・食生活・嚥下・排泄）
第２回	・在宅で求められる看護技術 （移動・移乗・清潔・認知機能・コミュニケーション）
第３回	・在宅における医療管理を要する人の看護 （褥瘡・尿道留置カテーテル・ストーマ）
第４回	・在宅における医療管理を要する人の看護 （経管栄養・在宅中心静脈栄養法・疼痛緩和）
第５回	・在宅における医療管理を要する人の看護 （ＮＰＰＶ・ＨＯＴ・ＨＭＶと排痰法）
第６回	・在宅看護の実際（退院前、療養移行期、安定期、急性増悪期、終末期）
第７回	・在宅で求められる看護技術（エンドオブライフケア）
第８回	演習　移動の介助 演習　関節可動域訓練
第９回	
第 10 回	演習　入浴介助 　　移動介助
第 11 回	
第 12 回	演習　清潔の介助
第 13 回	
第 14 回	グループワーク　事例検討　　振り返り まとめ
第 15 回	

【使用テキスト】
　系統看護学講座　統合分野　在宅看護論　　医学書院

【評価方法】
学科試験

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
臨床看護の実践	３	１（３０）	統合分野	岩屋　弓子 髙原　修一

【授業の目的・ねらい】

臨床に近い状況下で複数の患者への看護を通して、総合的な判断力や対応をする力を養う・看護技術を組み合わせて、複数患者の状態や状況にあった援助が実施できる

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	授業のねらい、授業の進め方
第２回	イントロダクション
第３回	循環器系のふり返り
第４回	循環器系の国試問題の知識
第５回	呼吸器系のふり返り
第６回	呼吸器系の国試問題の知識
第７回	腎臓系のふり返りと、酸塩基平衡について
第８回	腎臓系の国試問題の知識
第９回	急変のサインを見逃さないための重要ポイント① 事例を使用した臨床判断能力トレーニング①
第 10 回	急変のサインを見逃さないための重要ポイント② 事例を使用した臨床判断能力トレーニング②
第 11 回	多重課題① 事例を使用した臨床判断能力トレーニング③
第 12 回	多重課題② 事例を使用した臨床判断能力トレーニング④
第 13 回	事例からみる解剖生理と疾患の理解（COPD）
第 14 回	看護技術の総合的評価
第 15 回	看護技術の総合的評価

【評価方法】

課題評価　グループワーク参加　授業への参加　終講試験

【備考】

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
災害看護と国際看護学	２	４～９	１（３０）	統合分野	村上 潤一郎 徳永　すま子

【授業の目的・ねらい】
　災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接に関係しながら、人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。災害時に看護が果たす役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	異文化理解
第２回	我が国の国際協力　貧困について
第３回	国際看護活動の実際
第４回	災害看護概論、コミュニケーションスキル
第５回	災害看護の定義、災害サイクルにおける看護師の役割
第６回	
第７回	災害の基礎知識
第８回	近年の日本での災害
第９回	ＣＳＣＡＴＴＴ、トリアージについて
第１０回	
第１１回	多数傷病者対応訓練
第１２回	
第１３回	災害看護の実際
第１４回	国家試験対策
第１５回	地域の防災訓練見学 防災訓練の実際と災害地での看護の役割

【使用テキスト】
　系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　　医学書院

【評価方法】
　学科試験

科目名	年次	期間	単位（時間）	区分	講師名
臨床補助技術における安全	２	７月～１１月	１（３０）	統合分野	山川　光子 髙原　修一

【授業の目的・ねらい】
医療システムの中の危険要因を知り、診療補助技術における事故防止のための知識・技術を習得できる。ハイリスク環境下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を高めることができる。実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理感を身につけられる。

【授業計画】

回数	講義内容
第１回	序章　医療安全を学ぶことのたいせつさ
第２回	第１章　事故防止の考え方を学ぶ A　医療事故と看護業務 B 看護事故の構造
第３回	第１章　C 看護事故防止　事例
第４回	ヒューマンエラーと事故防止の取り組み、 医療事故を起こしてしまったら
第５回	臨床で起りうる医療事故の事例
第６回	実習で安全な看護を提供するために （転倒・転落予防、誤嚥予防）
第７回	看護師に必要となる感染対策の基本的な知識と技術
第８回	知らなければならない知識“医師の指示受け”
第９回	知らなければならない知識“薬剤注射”
第 10 回	知らなければならない知識“内服薬”　“インスリン”
第 11 回	知らなければならない知識“カリウム製剤”“輸血”
第 12 回	KYT（危険予知トレーニング）
第 13 回	KYT（危険予知トレーニング）
第 14 回	臨地実習に向けての医療事故防止、
第 15 回	臨地実習に向けての医療事故防止、講義のまとめ

【使用テキスト】
系統看護学講座　統合分野　医療安全　　医学書院

【評価方法】
授業の参加度、課題提出、グループワークの参加度、記述による学科試験により本授業の評価を行う。

科目名	年次	単位（時間）	区分	講師名
看護管理と研究	３	１（３０）	統合分野	古賀幸代 大町福美

【授業の目的・ねらい】

看護管理についての基礎知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解できる。
チーム医療や他職種との協働において看護師としてリーダーシップ、メンバーシップが理解できる。
看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護の振り返りができる。

【授業計画】

回数	講義内容
１回	看護とマネジメント
２回	看護ケアのマネジメント
３回	看護職のキャリアマネジメント
４回	看護サービスのマネジメント
５回	マネジメントに必要な知識と技術
６回	看護研究で学ぶこと 研究って何？　ケーススタディって何？ 看護過程と看護実践 看護理論の紹介
７回	ケーススタディを完成させるために 事例と理論の効果的な使い方 企画書の作成の仕方と実際　　レイアウトの説明 効果的な情報収集
８回	文章のまとめ方 研究時に使う文献の重要性、文献検索について、研究の倫理
９回	研究論文のクリティークとは 自己評価と他者評価 ケーススタディ本文・抄録・資料作成
10 回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
11 回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
12 回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
13 回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
14 回	ケーススタディ本文・抄録・資料作成 発表準備・パワーポイントによる資料作成
15 回	研究について総まとめ

【使用テキスト】

系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践Ⅰ　看護管理　（医学書院）

【評価方法】

看護管理：学科試験、ケーススタディ作成、発表の３つの合計の平均で評価。60 点未満で不可とする。